

International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) 2017 San Francisco に参加して

枝広あや子
東京都健康長寿医療センター研究所

老年学・老年医学の国際交流協会である IAGG の 4 年ごとに開催する国際学術会議が、The IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics です。本年は第 21 回 IAGG 国際学術会議が、2017 年 7 月 22 ~ 27 日に米国サンフランシスコで開催されました。

IAGG は世界に 73 の会員組織があり、医学、健康、保健、社会福祉、教育研究、行政政策などのあらゆる分野にまたがる老年学に関するテーマを扱っています。今回の IAGG 2017 では 75 ヶ国 6,000 人あまりの参加者が集まりました。日本からも多くの老年医学、老年社会学などの研究者が発表を行うなかで、櫻井 薫理事長はじめ日本老年歯科医学会会員も参加し発表を行いました。

本学会のオープニングセレモニーにおける講演では、「Frailty」モデルで知られる Linda Fried 先生 (Columbia University 公衆衛生学教授) と、高齢者の生活の質の向上を推進する非営利団体の Jo Ann Jenkins 先生 (AARP : American Association of Retired Persons, CEO) が基調講演をされました。

講演において Fried 先生からは、健康寿命の延伸により創出された高齢者の“新しいライフステージ”を、高齢者みずから設計し、健康に自己投資して社会参加を通じて自己実現することの社会的価値について、“Third Demographic Dividend : 第 3 の人材的利益”という表現により世界の老年学者に向けた激励をいただきました。また Jenkins 先生からは、AARP 財団の Drive to End Hunger (高齢者の貧困による飢餓を減らすためのプログラム) へのモータースポーツ界からの支援関係の締結、トヨタ自動車の助成を受けた高齢ドライバー支援プログラムなどを通じた、高齢者の社会参加に関する先見的で革新的な取り組みを推進する力強いメッセージが送られました。

こうした世界の潮流のなかで、高齢者の健康的な社会参加には健康的な食生活が必要不可欠であることは共通認識となっています。オーラルフレイルの概念を含め、



会場入り口



講師の Linda Fried 先生

高齢先進国であるわが国の歯科界からのさらなる情報発信の必要性が強く認識された学会でした。

次回会議は 2021 年 6 月 20 日よりアルゼンチンのブエノスアイレスで開催予定となっております。